

始める。基本的考え。また、それに基づく運動や施策。1960年代に北欧から

## ノーマライゼーション (normalization)

職員の話に理解を深めた様子の学生の姿が頼もしくみえました。あまり感じることなく、普通の生活ができるようにお手伝いしたい”

われしました。“地域社会の中に福祉施設をおくことで、環境の変化を

はどうあるべきか、ノーマライゼーションについて、などが話し合

暮らしの社会はどうあるべきか、高齢者社会にあって介護施設

反省会では、社会福祉をどう考えるか、障りをもった方が不安なく

手)若し学生がいることで、ご利用者の表情が和むことも。体験後の

付き添い、食事介助、トイレ、トランプ、麻雀、読書、お話し等のお相

五月頃から一月頃迄、ほぼ毎週体験生を受け入れています。(歩行の

支援学校で2日間の介護体験が必須です。シルバーネットビーでも

小、中学校の教員資格をとる大学生は、社会福祉施設で5日間、特別

## 大学生の介護体験



## あなたのお話、お聞かせください!

「Well Being」は読者の皆さんと一緒につくっていきます。  
 “こんな情報がほしい”“こんなことを掲載してほしい”という  
 ご要望がありましたら「Well Being」編集室まで、ぜひお気軽に  
 お寄せください。

### 掲載原稿募集のお知らせ

テーマ：“私が子供だった頃”400字程度、年代、性別を問いません。  
 ※無記名希望の方は、その旨記してください。

### 連絡先

〒359-1141 所沢市小手指町1-13-23  
 シルバーネットビー [Well Being] 編集室

ポストインで  
 お願いします!

企画・編集 田中 淳一 <編集長> 堀越 郁子  
 デザイン CHIHIRO  
 表紙(イラスト) MION  
 発行 株式会社シルバーネットビー  
 通所介護事業所<デイサービス>  
 デイサービスセンター小手指  
 シルバーネットBeeデイサービスセンター  
 訪問介護支援事業所<ホームヘルプ/ヘルパー派遣>  
 居宅介護支援事業所<ケアマネジャー/介護相談>  
 〒359-1141 所沢市小手指町1-13-23  
 〒359-1141 所沢市小手指町1-13-28  
 電話番号: ☎0120-978-023  
 F A X 番号: 04-2939-8900  
 ホームページ <http://silver-net-bee.com>  
 発行日 2012年3月1日 第三号



AED(自動体外式除細動器)を備えています。  
 必要な際にはいつでもお申し出ください。

もらいたい。私たちはそのための支援を心がけています。  
 してもらいたい。普通の生活をいつまでも安心して続けて  
 さんの幸せがあります。その幸せを利用者の皆さんに実現  
 もなく、いつもの暮らしの中の、何気ないひとこまにたく  
 みています。しかし、これらによる明らかな答えを待つまで  
 が、また現代では精神医学的アプローチによって追究を試  
 なのか... 答えを求めて古来より、多くの哲学者や宗教家  
 いるそうです。では裕福さ、快楽とは異なる“幸福”とは何  
 う訳でもありません。それでも国民の9割が幸福を感じて  
 裕福ではありません。また規制も多く、日本より自由とい  
 指している国として有名です。フランスは決して経済的に  
 National Happiness(GNH:国民総幸福量)の大きさを目  
 したことで記憶に新しいフランス王国は、Gross  
 が大切だと考えています。昨年仲睦まじい国王夫妻が訪日  
 私たちはいつも通りの生活、普通な毎日が続けて頂くこと

## 安心して暮らせる環境作りのお手伝い



Well Being 幸福、福利、健康 Well Being 元気でいこうよ

# Well Being

TAKE FREE! vol.3



特集

# あ.ん.し.ん



SILVER-NET

ヒノキオバイク

自転車物語②



自転車で "行って来ま〜す。"

Empty rectangular box for text input.



犬の貰い手決まりました。



私が子供  
だった頃

しってるひと？



所沢市 ほの様

幼い私が母と手をつないで歩いている。どこだったのか、道は広がったのか狭かったのかは何も覚えていない。母がすれ違った誰かに会釈し、一言二言ことばを交わして別れた。「おかあちゃん、いまの人しってるひと？」「ううん」春の日差しの中で笑っている母を、ふしぎな思いで見上げたことが鮮明に思い出される。時が経って私も母親になった。所沢に越してきたばかりだったろうか。バス停に出るまでは畑の間の細い道である。向こうからきたひととはすれ違う時どうしても体をよけあうようにしなければならない。会釈したまま、

たまにはちょっと天気の話をしたりすることもある。ある日、手をつないでいた、まだ幼かった息子が言った。「ママ、いまの人しってるひと？」「ううん」笑っている私を息子が眩しげな顔でふしぎそうに見上げていた。私もあんな眼差しをしていたのだろうか。『おかあちゃん』が『ママ』になったことに時代を感じるが。

